

保育指導案

指導者 広島市立〇〇幼稚園

教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 平成 21 年 10 月〇〇日 (〇)
- 2 場所 〇〇幼稚園 園庭
- 3 対象児 5 歳児 〇組
- 4 活動名 運動遊び 「めざせたからじま」
- 5 幼児の様子

○ 体を動かすことが好きな幼児は、積極的にリレーに参加したり雲梯や鉄棒など、自分なりに目標に向かって繰り返しチャレンジしたりしている。中には、普段あまり関心や意欲は見せないが、クラスみんなで取り組む活動の場では、積極的に自分の力を発揮して体を動かすことを楽しむ幼児もいる。

一方、体を動かすことが苦手だと思ったり好きでないと思ったりする幼児は、やってみないとチャレンジしてみるものの、思うように体が動かない、体の動きのバランスがとりにくい（平均台あそび、両足連続とび、片足立ち、スキップなどができにくい）などから体を動かすことへの抵抗感がある。中には、自分が出来ないと判断し、はじめから取り組もうとしない幼児もいる。

この時期は、身体が著しく発育すると共に運動機能が急速に発達するときであり、活動性も高まるが、各幼児のこれまでの体験により、体を動かすことへの意欲には個人差がでる。

○ 2 学期はじめに運動会種目であるリレーをしようと、好きな遊びをしている幼児たちを誘ったところ、日頃から積極的に取り組んでいる幼児は、喜んで参加してきたが、全体的には関心が薄かった。

思い切り走ることの気持ちよさを体験する機会が少なかったのではないかと考え、5 歳児全体で計画的に時間を決めリレーに取り組んでいった。繰り返し取り組む中で、走ることの気持ちよさや勝つ喜び負ける悔しさを味わい、走ることへの意欲へとつながってきている。

また、どうすれば早く走れるだろうか、勝てるだろうかと話合ったり応援しあったりすることを通して、みんなで力を合わせて取り組む楽しさや達成感も味わってきている。

○ クラスでは、リズム運動や体を動かすことを楽しめるふれあい遊びを日常的に取り入れている。中でも、グループ対抗での勝ち抜きジャンケン遊び「ゴーゴージャンケン列車」を楽しみにしており、グループ意識が高まっている。

6 活動について

○ 自ら体を動かそうとする意欲を育てるためには、まず、幼児自身が体を十分に動かして遊ぶ気持ちよさや楽しさを感じる体験をすることが大切である。そこで、幼児が取り組みやすく、友達とふれあいながらのびのびと動くことができる運動遊びを工夫し実践することとした。

○ 「めざせ たからじま」は、友達とジャンケンしたりくじを引いたりしながら場（島）を移動していく遊びであり、ジャンケン双六の運動遊び（安田女子大学 徳永隆治教授の講義）を参考にしたものである。

各コースでの動きについては、幼児の実態に合わせて構成することができ、友達と相談したり競争をしたりしながら繰り返し楽しむことが出来ることから、運動量の増加を図ると共に、十分に体

を動かす気持ちよさを体験できると考える。

特に体を動かすことに消極的だったり苦手意識をもっていたりする幼児も友達の様子をまねながらできるので、抵抗なく取り組み自然に体を動かすことが楽しいと感じられる体験ができると考える。

- 活動を進めるに当たっては、昨年運動会で踊った「めざせ たからじま」の歌や絵本「わんぱくだんのたからじま」の話のイメージを取り入れた。たからじま探検のイメージをもたせることで、遊びのルールが理解しやすくなり、探検隊としてのイメージで活動に取り組むことができるので、より楽しく意欲的に活動できると考えた。
- 7 「自ら体を動かそうとする意欲を育てる」にかかわるこの期のねらい及び内容(◎ねらい, ○内容)
 - ◎ いろいろな運動に関心を持ち、チャレンジすることを楽しむ。
 - ◎ 友達と共通の目的やイメージをもって遊びを進める。
 - ◎ イメージを豊かにし様々な表現を楽しむ。
 - めあてをもって、戸外でしっかり体を動かして遊ぶ。
 - 友達と相談したり考えを出し合ったりして遊びを進めていく楽しさを味わう。
- 8 指導するにあたって
 - みんなで運動会をやり遂げ、幼児たちの体を動かす意欲が高まっているこの時期、「めざせ たからじま」の遊びを通して、友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさやみんなで力を合わせて取り組む楽しさを味わわせたい。また、安全に気をつけルールを守って遊ぶことを意識付けていきたい。
 - 指導については、楽しみが持続していくよう、幼児たちの動きや思いに合わせた環境準備や教師の言葉かけ（肯定的評価＝認め、ほめる）に留意し、特に体を動かそうとすることに苦手意識のある幼児には、意識的に頑張っていることを認める言葉かけをし、自信につなげていきたい。
- 9 活動の流れ
 - ① 「めざせ たからじま」の話をイメージしジャンケンで進むやり方で遊ぶ。(2時間)
 - ② 幼児たちと相談しながら、必要なものを作る。(2時間)
 - ③ 運動会の親子競技として「めざせ たからじま」を行う。(1時間)
 - ④ 運動遊び「めざせ たからじま」を行う。(3時間) 本時 2/3

10 本時のねらい及び活動

ねらい	・友達と一緒に、体を動かして遊ぶことを楽しむ。		
時間	活動内容	教師の援助	準備
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の集いをする。 ・ 出席調べをする。 ・ 今日の生活の流れを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身支度が済んだ幼児から手洗い・うがい・水分補給をするよう促す。一人一人の心身の様子を把握する。 ・ 今日の活動について見通しがもてるようにする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外に集合する。 ・ 必要な用具を準備する。 ・ 体操をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動遊び「めざせ たからじま」をして遊ぶ。 ・ チームに分かれて座る。 ・ 遊びのルールや運動の仕方を確認し合う。 ・ 1回戦をする。 ・ 宝の数を数え勝敗を決める。 ・ 相談して2回戦をする。 ・ 宝の数を数え勝敗を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌に合わせて体をほぐしていく。 ・ 地図を見せながら、前回幼児と決めた動きに必要な用具を準備させ、活動への期待感を高めていく。 ・ 教師は、コースや方法について知らせる。特に動き方や安全に気をつけて進むことについては、具体的に見せながら意識付けていく。(人を押さない・順番を守る) ・ 次の動きを取り入れ体を動かすことが楽しめるようにする。 <u>跳躍</u>…連続跳び越し・立ち幅跳び <u>這う・くぐる</u>…マットの上を這う・網の中や輪をくぐる <u>バランス</u>…ロープや平均台・太鼓橋の上を歩く <u>体を支える</u>…鉄棒・雲梯 <u>跳び上がり下りる</u>…巧技台・跳び箱 <u>走る</u>…たからじまからスタートまで ・ スタート後は、幼児の表情や動きを把握し、楽しみながら進めるよう一人一人に声をかけていく。特に苦手意識の強い幼児には、意図的に声をかけ励ましたりみんなの前でほめたりする。 ・ 一箇所に幼児が集中したときは、遊具や用具の数を増やしたり間隔を広げたりして、安全面に留意し、楽しみながら活動が継続出来るようにする。 ・ 2回戦では、幼児と相談しながら、運動用具を移動したり変えたりして変化が楽しめるようにする。 ・ 気持ちが高まらず不安に思っている幼児には、気持ちを受け止めながら、楽しく進められるよう援助していく。 	地図 ケンステップ マット 網 平均台 太鼓橋 跳び箱 縄 巧技台 くじ引 標示 BGM 点数板 ライン引き
10:10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集まる。 ・ 今日の遊びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざせ たからじま」の楽しかったことや気づいたことを伝え合いながら、次回への楽しみにつなげていく。 	

11 評価の観点

- ・ 幼児は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいたか。
- ・ 幼児が体を動かそうとする意欲を高める教材や場づくり、教師の援助（肯定的評価）は、適切であったか。

